

特集

わたしたち、 先生になります。

教員採用試験の合格者、続々と誕生
九州女子大学・九州女子短期大学
九州共立大学



学是自律処行
福原学園



九州女子短期大学家政科の第1期生(昭和35年)

九州女子短期大学を開学 総合学園へと歩みを進める

福原学園は幼稚園から大学までの総合学園の実現をめざし、昭和35年、その緒に就くことになる。福原女学院を改称した八幡女子専門学校を、女性の高等教育の理想を実現するため、家政科を専攻とする九州女子短期大学へ発展させたのである。

福原軍造理事長は第1回入学式で「人間生活に最も深い衣・食・住の学問的研究を通して、人格の完成を教育理念としている」と入学生に述べ、「日本女性として世界文化水準に達し、その高揚を図る」と期した。

家政科はその後、家政課程と栄養士課程に分離。同47年には家政専攻と食物栄養専攻に改めている。

九州女子短期大学の躍進は目覚ましく、昭和37年に養護教育科、翌年には体育科、さらにその1年後には英文科、同41年には初等教育科、同44年には福岡県では初となる音楽科を設置。福原理事長の理想とする教育を実践した。また、昭和50年代には教員採用試験で短大では九州トップの合格率を誇るようになり、昭和57年には、小学校教員採用試験の合格者(北九州市66名、福岡県71名、福岡市35名、長崎県32名、熊本県24名、鹿児島県5名、宮崎県9名、山口県23名、愛媛県4名、沖縄県4名)が全国一になった。九州女子短期大学の名声は広く轟くことになったのである。



九州女子短期大学では入学に際し、理事長自らが面接を行なった(昭和35年)

Contents

創設者 福原軍造の書

■特集

わたしたち、先生になります。

教員採用試験の合格者、続々と誕生
九州女子大学・九州女子短期大学、九州共立大学

学生がめざす卒業後の進路のひとつに教員がある。九州女子大学・九州女子短期大学、九州共立大学では教員養成に力を入れており、強固なサポート体制を築いて教員志望の学生の夢を後押ししている。

九州女子大学・九州女子短期大学 教員養成サポート体制

大躍進のカギは「チーム九女」! 学生・教員一丸でつかんだ多数の合格

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科

- 北九州市・福岡市教員採用試験 小学校教諭 合格者のみなさん
- 福岡県・福岡市教員採用試験 小学校教諭 合格者のみなさん
- 他府県教員採用試験 小学校教諭 合格者のみなさん
- 教員採用試験 特別支援学校教諭 合格者のみなさん

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

- 福岡県教員採用試験 中学校 家庭科教諭 合格 溝田 桃子さん

九州女子短期大学 子ども健康学科 / 専攻科 子ども健康学専攻

- 福岡市教員採用試験 養護教諭 合格 中原 さくらさん

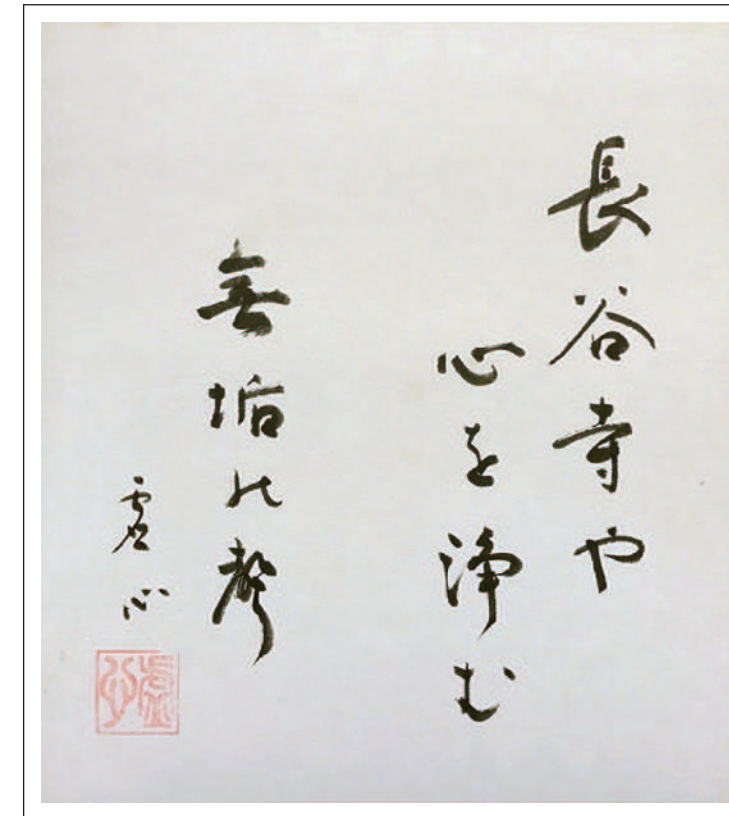
九州共立大学 教員養成サポート体制

九州共立大学 スポーツ学部 スポーツ学科

- 福岡県教員採用試験 中学校 保健体育教諭に合格 永井 僚さん
- 福岡県教員採用試験 高等学校 保健体育教諭に合格 貝田 悠真さん
- 鹿児島県教員採用試験 中学校 保健体育教諭に合格 小松 将大さん
- 広島県教員採用試験 中学校 保健体育教諭に合格 東 佑興さん

[Liberty Topics]

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学オープンキャンパスのお知らせ / オリンピックフェンシングの銀メダリスト太田雄貴氏を招き九州共立大学スポーツ学会が講演会を開催 / 「第1回福岡ご当地さわらサミット2017 in 芦屋町」で、華やかにダンスパフォーマンス! 「さわら巻き」も大好評 / キャンパス企業セミナー



【創設者 福原軍造の書】

「長谷寺や 心を浄む 無垢の聲」

創立者・福原軍造の出生地、鞍手郡鞍手町長谷地区には、仁和元年（885年）に大和の国（現在の奈良県）から、鞍手の地におもむいた僧が開いたとされる長谷寺がある。

幼い時から過ごしたこの長谷寺で聞く「無垢の声」。軍造氏の心には、如何ばかりであろうか。

色紙に自作の歌。

文字を小粒にして、すっきりと余白をとり、技巧的な線や字形はいっさい見せない。線の張りと筆遣いに、瑞々しさが表出するこの書は、歌の内容そのものの表現と、誰もが感じるであろう。

軍造氏が、ふだん色紙に認める力強い書き方とは、まるで別人である。

晩年の作。

軍造氏が教育に向かった原点が、ここにあるのではないか。

【解説】九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
准教授 古木誠彦

特集

わたしたち、先生になります。

教員採用試験の合格者、続々と誕生

九州女子大学・九州女子短期大学、九州共立大学

学生がめざす卒業後の進路のひとつに教員がある。九州女子大学・九州女子短期教育現場に精通した指導教員をそろえ、最新の採用試験に対応した教育環境を特に今年九州女子大学・九州女子短期大学の教員採用試験現役合格者がそこで、今号では大学のサポートを特集して紹介する。

期大学、九州共立大学では教員養成に力を入れており、整えるなど、強固なサポート体制を築いている。延べ55名を数え、目覚ましい結果を残した。



We will be Teachers!

学生の意欲を後押しするきめ細かなサポート体制

筆記試験から集団討論、模擬授業まで自治体ごとに試験傾向を分析し指導

教員採用試験は筆記試験のほか、集団・個人面接や集団討論、模擬授業など多岐にわたり、自治体ごとに出題傾向も違う。その対策として筆記試験の出題傾向を分析し、二次試験の面接や集団討論、模擬授業に関する情報をデータ化。学科教員が指導する。

実践力がつくボランティア活動 自信もつき教育実習もスムーズ

教員採用試験は適性や人物を評価する模擬授業、面接試験などのウエイトが高い。そこで学校現場を体験させるため、「グリーンティーチャー制度」やひまわり学習塾、放課後の学童クラブなど、地域と連携したボランティア活動に力を入れている。教育現場を知ることによって教育実習時も慌てることなく、学生のモチベーションが上がって自信もつくようだ。

教育現場に精通した 経験豊富な教員陣が一人ひとりと向き合い合格へ導く

教員採用試験に向けて大きな力となっているのが、かつて教育現場で活躍していた経験を持つ教員陣だ。一人ひとりと向き合い筆記試験対策や模擬授業、面接指導を行うほか、教職者としての心構えや、やりがいを伝え、合格に至るまで学生を鼓舞して励ます。

特別支援学校教諭も2名が合格 専任の教員3名が徹底的に指導

障がい者有する児童・生徒のための特別支援学校の教諭は障がいへの理解や専門知識と実技が必要になり、学生は多くの課題をクリアしないとけない。九州女子大学では現場を知り尽くした3名の専任教員が指導。障がい者と接して、体験を通して学ぶことを教えている。

競争率が高い家庭科や養護教諭 実技の特訓や実習で合格へ導く

小学校の教員採用人数に比べ、採用数が少ない家庭科教諭や養護教諭。家庭科教諭志望の学生に対しては、教員採用試験専門の講師による特設講座で筆記試験対策を行ったり夏休みを利用し被服や調理の実技を特訓。養護教諭をめざす学生には教育実習前に5日間だけ近隣の実習校で実習させるプレ養護実習などを行い、合格へ導いている。



春期特訓セミナー
(合格者から3年生へのアドバイス)



自習室

教員をめざす学生を徹底サポート 平成29年度の現役合格者は55名!

九州女子大学・九州女子短期大学
教員養成サポート体制

「教員をめざすなら九女」といわれるほど、現役合格者を毎年多数生んでいる九州女子大学・九州女子短期大学。平成29年度の採用合格者数は55名を数え、目覚ましい実績を残した。現役で合格するという明確な目標設定と、それに向けた大学のサポート体制は揺るぎがない。

■ 平成29年度 教員採用試験 最終合格者状況 小学校、特別支援学校、中学校家庭科、養護教諭



取得可能な教員免許状

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻

- 幼稚園教諭一種免許
- 小学校教諭一種免許
- 特別支援学校教諭一種免許
- 学校図書館司書教諭

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

- 中学校教諭一種免許「国語」
- 高等学校教諭一種免許「国語」「書道」
- 学校図書館司書教諭

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

- 中学校教諭一種免許「家庭」
- 高等学校教諭一種免許「家庭」

九州女子大学 家政学部 栄養学科

- 栄養教諭一種免許

九州女子短期大学 子ども健康学科

- 幼稚園教諭二種免許
- 養護教諭二種免許

九州女子短期大学 専攻科 子ども健康学専攻

- 養護教諭一種免許

大躍進のカギは「チーム九女」！ 学生・教員一丸でつかった多数の合格



特集

わたしたち、先生になります。
教員採用試験の合格者、続々と誕生

小学校教諭

九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間発達学専攻



- | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 藤原 美愛さん 福岡県立八幡南 高等学校出身 | 中武 愛さん 福岡県立門司学園 高等学校出身 | 松本 奈津美さん 福岡県立戸畑 高等学校出身 | 相部 七海さん 大分県立高田 高等学校出身 | 青木 映里香さん 福岡県立三浦 高等学校出身 | 山田 文香さん 福岡県立育徳館 高等学校出身 | 濱口 夏実さん 福岡県立八幡 高等学校出身 | 亀澤 彩音さん 福岡県立北筑 高等学校出身 | 古賀 麻衣さん 福岡県立八幡南 高等学校出身 | 釘本 紗和子さん 福岡県立育徳館 高等学校出身 |
| 力丸 桃華さん 福岡県立新宮 高等学校出身 | 山本 英里可さん 福岡県立八幡 高等学校出身 | 林 さくらさん 福岡九州産業 大学付属九州 高等学校出身 | 小野 千尋さん 大分県立中津北 高等学校出身 | 畑田 夏希さん 福岡県立小倉西 高等学校出身 | | | | | |

実践力がつき、やる気わく
重要なボランティア活動

平成29年度の小学校・特別支援学校の教員採用試験で多くの合格者を生んだ九州女子大学人間科学部人間発達学科人間発達学専攻。学生自身の努力はもちろん、学生の希望や適性に応じた指導を教員が早期から行い、大学と学生が一丸となって取り組んだ対策も躍進の理由の一つだ。

教員採用試験は筆記試験も大事だが、適性や人物を評価しながら、育てることが大事。そこで、学生にできるだけ多く学校現場を体験させるため、ボランティア活動を大切にしている。その一つ「グリーンティチャー制度」は北九州市や中間市、福岡市、その近隣の自治体の教育委員会・学校と連携した本学独自の取り組みで、地域の小学校・特別支援学校などに学生を学習サポーターとして派遣。子どもとの接し方や学級運営の実際を学ぶとともに、学校という組織を体感し、必要とされる教師像を自分なりにイメージすることもできる。また、子どもと触れ合い、教育現場の実際の様子を知ることが学生にとってモチベーションが上がる。同時に自信が付き、教育実習もスムーズに行えるなど、いろいろな効果も生んでいる。

一方、ひまわり学習塾や放課後の学童クラブなど、地域と連携した活動にも積極的に取り組み、問題解決力やコミュニケーション能力を現場で鍛える。一連の活動では身だしなみや挨拶、関係者への報告など、社会人として必要なマナーや礼儀を徹底指導。教育現場の先生や指導者の方から高い評価を受けている。

教授の必勝アイテム

模擬授業では学生がさまざまな性格の児童役を務める。その役割がわかるよう手作りした道具。



九州女子大学
人間科学部 人間発達学科
佐方 はるみ 教授



We will be
主な合格自治体
福岡県
福岡市
Teachers!

特集
わたしたち、先生になります。
教員採用試験の合格者、続々と誕生

教授の必勝アイテム



ペーパーテスト、面接、模擬授業など、どれも制限時間が決まっているため、常にタイマーを使い時間内に終える力を養う。



九州女子大学
人間科学部 人間発達学科
城 佳世 准教授

吉竹 真里亜さん
福岡県立田川
高等学校出身

陣内 麗菜さん
福岡県立太宰府
高等学校出身

吉村 優さん
福岡県立京都
高等学校出身

青野 かすみさん
福岡県立宗像
高等学校出身

岡山 摩厘さん
福岡県立育徳館
高等学校出身

岡部 仁美さん
福岡 日新館
高等学校出身

瀧 礼子さん
福岡県立筑紫丘
高等学校出身

有門 知恵さん
福岡県立田川
高等学校出身

柳野 好美さん
福岡県立八幡南
高等学校出身

梅林 志帆さん
福岡県立京都
高等学校出身

大塚 祐里奈さん
福岡 福岡工業大学
附属城東高等学校
出身

鈴木 日菜乃さん
福岡県立南筑
高等学校出身

石松 由樹子さん
福岡県立宗像
高等学校出身

小島 優美菜さん
福岡 九州国際大学
付属高等学校出身

九州女子大学のもう一つの強みは、学生同士が協力し切磋琢磨するチーム力にある。受験する自治体が決まると、学生には同じ自治体を受験する学生同士でチームを組ませ、チーム力で全員合格をめざす。

週に1回は面接や討論の練習の場を持たせるが、同じ目標を持つもの同士の結束は固く、特に指導しなくても学生同士で討論や面接の練習を行い、夜遅くまで勉強会を開く。また、模擬授業ではお互いに意見を交換し改善点を指摘するなど、力を高め合う姿が見られる。

耕学館には自習室を設け、学生がいつでも自由に勉強できる環境を整えている。ここには各自治体の採用試験対策用テキストをはじめ、ここ数年の出題傾向のデータを揃えているが、採用試験前になるとほとんどの学生が遅くまで自習室にこもって勉強する。歴代の先輩が寄贈したテキストや試験問題、受験に関するアドバイスをまとめたファイルなどもあり、学生にとって励みになっているようだ。

やる気高め、学び合う
チームでめざす全員合格

教員採用試験は一次の筆記試験のほか、集団・個人面接や集団討論、実践力を見る模擬授業など多岐にわたる。しかし、筆記試験の出題傾向や討論、模擬授業のテーマは自治体ごとに異なり、合格を勝ち取るには受験する自治体の試験傾向をつかむことが重要になる。

人間発達学科では、筆記試験の出題傾向を分析する一方、二次試験の面接や集団討論、模擬授業に関する情報をデータ化している。このデータは出題傾向がつかみやすく、教員をめざす学生にとってなくてはならない貴重な資料となっている。

学生が最終的に進路を絞るきっかけとなるのが、3年生後期(2月)に行う春期特訓セミナーである。その年の採用試験に合格した学生が5日間にわたり、3年生に具体的なアドバイスをしておく。学生はここで自治体ごとの試験内容や傾向、雰囲気などを具体的に知ることができ、合格ラインも見えてくる。この演習をきっかけに学生のやる気モードは全開になる。

自治体ごとに傾向を分析
豊富なデータで後押し

わたしたち、先生になります。

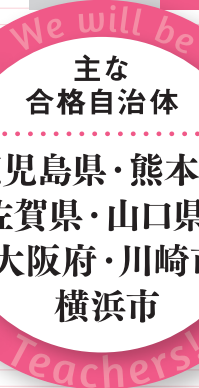
教員採用試験の合格者、続々と誕生

小学校教諭・特別支援学校教諭

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻

主な合格自治体

鹿児島県・熊本県 佐賀県・山口県・大阪府・川崎市 横浜市



- 小藤 亜由美さん 山口県立宇部高等学校出身
福田 幸さん 山口県立大津高等学校出身
中島 玲衣奈さん 鹿児島県 尚志館高等学校出身
諸石 麻美さん 佐賀県立白石高等学校出身
小島 璃子さん 福岡 自由ヶ丘高等学校出身
石坂 なつみさん 長崎県立長崎北高等学校出身
福田 麗歩さん 熊本県立五名高等学校出身
木口 和華子さん 熊本県立天草高等学校出身



- 荒井 美有紀さん 福岡県立北九州高等学校出身
太田 ひかりさん 沖縄県立名護高等学校出身



特別支援学校採用 沖縄県 京都府

多彩な経歴の教員陣が一人ひとり細やかに指導

学生のなかには福岡県外の自治体採用をめざす者も多い。ただ、情報量面で不安を感じる学生もいるため、指導教員が福岡県外受験者をつつのチームとしてまとめ、仲間同士でモチベーションを高める一方、学生の希望する自治体ごとに担当を分担し試験傾向を分析。マンツーマンに近いスタイルで筆記試験対策や模擬授業、面接指導を行っている。

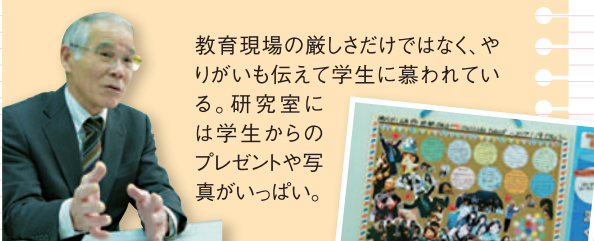
なかでも大きな力となっているのが指導者に教育現場の経験者が多いことだ。教育現場に精通した教員も複数おり、その経歴を通して得たさまざまなネットワークを活かしながら県外で

の採用をめざす学生を指導している。そうした教員陣は折に触れ、学校現場での仕事の実際や教職者としての心構えを伝えつつ、やりがいなども話して学生を励まし、背中を押す。

また、県外採用をめざす学生に限ったことではないが、小学生に限る言葉遣いをするよう指導。例えば、「感想を述べなさい」など低学年が知らない言葉ではなく、「どう思う?」といった噛み砕いた表現をするよう徹底してアドバイスし、「伝える力」をつけさせる。

ほかに、面接や集団討論対策としてコミュニケーションの取り方はもちろん、討論に臨む際の体の姿勢まで指導しており、こうした厳しさが二次試験合格に確実につながっている。

教授の必勝アイテム



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 神代 明 教授

教育現場の厳しさだけでなく、やりがいも伝えて学生に慕われている。研究室には学生からのプレゼントや写真がいっぱい。

在学生による小学校国語教材の物語分析と童話創作の成果をまとめた「物語教材分析と創作」という書籍(毎年刊行)。

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 白瀬 浩司 准教授

難易度高い合格への道で栄冠をつかんだ2名の学生

障がい有する児童・生徒のための特別支援学校では小学校教員の学びに加え、障がいへの理解や実態把握、指導法など専門知識と実技が必要になり、学生はより多くの課題を解決しなければならぬ。今年はそのような難関を突破し、2名の学生が現役合格を果たした。

九州女子大学では教育現場を知り尽くした3名の専任教員が指導。障がい者と接する機会が少ない学生のために、体験を通して学ぶことを教えている。そこで、授業がない時間には北九州市内の特別支援学校に学生ボランティアとして参加すること

を課し、障がいの状態や行動特性などを学ばせる。そして、ボラン

ティア終了時に特別支援学校の担当教師と専任教員にレポートを提出させる。レポートをまとめることで体験が反すうでき、より理解が深まるからだ。責任感を持って児童・生徒の指導に取り組む姿勢は教員をめぐすどの学生にも必要な要素だが、体に触れる機会が多い特別支援学校の教員は特に保護者からの信頼も強く求められる。そのため、演習を何度も繰り返し知識や技術を習得するのはもちろん、根気強さや折れない心も身につけ、より信頼を高めることを学ばせる。

そうした努力の結果、今年は2名が合格したが、スタート地点に立ったばかり。これからは経験を通して力を磨き、学校の最前線で末長く活躍していくことが期待される。

教授の必勝アイテム



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 鎌田 義彦 教授

特別支援学校の目的や法規、授業内容、専門用語など知るべきことが網羅されている特別支援学校学習指導要領。



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 堀江 幸治 准教授

知的障害がある児童にひらがなを教える教材。教材の使い方を学ぶことで根気強さや観察力の大切さを知る。



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 石黒 栄亀 准教授

特別支援学校で使う教材を多数揃え、障がいの状態に合わせた指導法を学ばせている。

中学校家庭科教諭

九州女子大学 家政学部 人間生活学科



家庭科教諭採用

福岡県中学校1名
 他 私立高等学校 8名

We will be Teachers!

溝田 桃子さん (写真左)
 福岡県立武蔵台高等学校出身

小学校養護教諭

九州女子短期大学 子ども健康学科
 専攻科 子ども健康学専攻



養護教諭採用

福岡県小学校1名
 他 私立高等学校 1名

We will be Teachers!

中原 さくらさん (写真右)
 福岡県立光陵高等学校出身

筆記や実技を特別指導 豊かな社会経験も重要視

平成29年度の教員採用試験において一次合格者7名を出した人間生活学科。衣食住全般を学ぶことができ中学・高校の家庭科教諭を志す学生も多い。しかし、採用自体が少ないため採用試験の競争率は極めて高い。また、家庭科講師として現役で働く社会人が教諭をめざして受験するケースも多く、経験の少ない学生にとって人物や実技を評価する二次試験は難関だ。

そこで筆記試験に関しては教員採用試験専門の講師を招き、特設講座を開いて解答率アップを図る。実技では夏休みを利用して被服や調理の特訓を実施し、力を磨いていく。

一方、社会で経験を積むことがコミュニケーション力を高め、指導力向上につながる。平成27年度カリキュラムよりPBL(課題解決型)学習として地域活動を取り入れている。協力先担当者との交渉をはじめ、活動の準備からすべてを学生に任せており、学生は状況を報告することで、人の動かし方や報告の仕方を学ぶことができる。また、学童クラブなどのボランティア活動への積極的参加も推奨。子どもとの接し方を体験したり、現場指導者や保護者と接することで社会人としてのマナーや気遣いも覚えていく。

教授の必勝アイテム



人の体に必要な栄養素を生徒に伝えるためのカード。手作りで、わかりやすく工夫している。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科
 西田 真紀子 准教授

大学のサポートを生かし 自ら学ぶ強い意思も必要

養護教諭は各学校への配置数が少ないことから競争率はとても高く、実際に目標を達成できる学生は限られているのが実情だ。九州女子短期大学子ども健康学科では採用試験の教養試験や実技の特別対策講座を授業に組み入れ、頻繁にテストを行うことでまずは知識の定着を図る。さらに、面接試験対策として個別に指導するなど、きめ細かく学生をサポート。思惟館にある教員採用試験対策室では、過去問や関連資料を充実させ、学生がいつでも自由に勉強できる環境を整えている。

今年福岡市の養護教諭採用試験という狭き門に1名が合格した。そうした大学のサポートを上手に使い、積極的な姿勢で学んだ学生の熱意の結果だと考えている。

そうした一連の体験は学生にとって大きな自信につながっており、合格を後押し。採用の面接試験で実体験を踏まえた返答をすることができ好印象を与えたと手応えを感じる学生が多い。

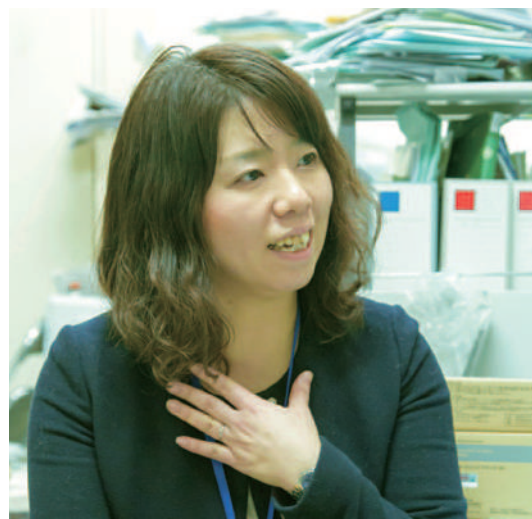
教授の必勝アイテム



先生が独自に作った頻出用語の問題集。夏休み前に課題として出し、すべてを暗記させる。

九州女子短期大学 子ども健康学科
 橋口 文香 准教授





私がサポートしています。

前向きで 伸びしろのある学生 きめ細かな指導で 合格に導く

九州共立大学 経済学部 経済・経営学科
教職課程科目担当

日高 和美 講師

課程科目のカリキュラム以外に夏休みや春休みに特別支援講座を開き、論文や模擬授業を評価したり、学習上の疑問点に細かに対応。面接指導も随時行っている。受講は自主性に任せているが、意欲的な学生が多くフル稼働の状態が続いている。教員採用試験は自治体ごとに課題傾向が違うので、学生にはできるだけ早くめざす自治体を

教員免許を取得するには、卒業に必要な単位以外に教職課程科目の履修が課せられる。さらに、中学校教諭一種をめぐす学生は4週間の教育実習と特別支援学校や社会福祉施設での介護等体験が、高等学校教諭一種をめぐす学生は2週間の教育実習が必修だ。教えることを経験したことのない学生が、教育実習ができるレベルに成長するには強い意志で学習を重ねることが求められる。さらに教員として働くには教員採用試験に合格しなければならぬが、競争率が高く、狭き門となっている。こうした実情に対して、教職課程科目の

九州共立大学の学生は素直で吸収力が高く、困難に立ち向かう気力も十分に頼もしく映る。今年は4名の学生が難関の公立中学校・高等学校の教員採用試験に合格した。学校教育は時代とともに変化していくが、常に新しい動向をつかみ、力のある教員に育ってほしいと願っている。

決めさせ、対策を行っている。具体的には、過去問題を根気よく繰り返し、面接や集団討論練習では教員にふさわしい態度、適切な判断力が求められるため、表情や姿勢まで厳しく指導するのだ。



ホワイトボードに
毎日の在室時間を記入し、
特別支援講座や自主勉強の
指導の要請に対応している。
意欲ある学生が多く、
時間のやりくりが重要課題という
うれしい悲鳴も。



教育現場の要請に応える 魅力ある教員を育成

時代の変化とともに、教育現場では発想力や人間力にあふれた教員が求められている。九州共立大学では専門領域に関する幅広い知識を持ち、児童・生徒のコミュニケーション能力や問題解決能力を豊かに育むことができる教員を育成している。

九州共立大学
教員養成
サポート体制

九州共立大学 経済学部 経済・経営学科で取得可能な教員免許状

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民・商業)

九州共立大学 スポーツ学部で取得可能な教員免許状

- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)

学生の意欲を後押しするきめ細かなサポート体制

学生のやる気を育てるカリキュラム

■ 大学一丸となって学生を指導

教員をはじめ、教務課や学生支援課など、大学が一丸となって教員志望の学生をサポート。教職課程の基礎科目は専任教員が学部の垣根を超えて指導を行い、専門科目の担当教員と情報を共有しながら学生の達成度をチェックしている。

■ 教員養成セミナー(3・4年生合同)

現任教員のOB・OGを招き、学生の模擬授業を評価してもらおうほか、座談会形式で質疑応答。教員採用試験の傾向と対策や学校現場について理解を深め、教職への意欲を高めている。

〈特別対策講座〉

担当教員による教員採用試験の対策講座を学生の希望により随時開講。論作文のチェックや模擬授業の評価、自己アピール力など、採用試験を勝ち抜く力をつけている。

■ やる気支援

理解が遅い科目への対応や基礎力確認など、カリキュラム以外で学生の学習を支援。週に3~4時間、時間割に組み込み、学生が質問しやすい体制を整えている。

■ 教職サークル

学生の自主的な勉強会を指導教員が支援。過去問題の研究や論文指導、面接指導、集団討論指導、模擬授業の実践など、さまざまな教員採用試験対策を行っている。

実践力となる現場体験

■ ボランティア

教育現場を知り、児童・生徒とのコミュニケーション力を高めるため、芦屋町と連携した地域ボランティア活動や小学校の学習サポートボランティアを実施。半年から1年というスパンで、学生のモチベーション維持を後押しする。

■ ICTを使った授業計画

学校現場へのICT(情報通信技術)導入が進むなか、学内に無線LAN環境を整え、少人数授業でICTを活用した授業を展開。電子黒板やタブレット端末を設置した教室を整備するなどICT環境を整えている。

教員採用試験対策

教員採用試験を受験したOB・OGのデータを毎年蓄積し、試験の傾向や、面接内容などを詳細にデータ化。自治体ごとの出題傾向も分析し、指導に生かしている。

■ 面接・集団討論対策

教員採用試験では面接や集団討論を通して人物評価が重要視されていることから、少人数制による面接指導や集団討論指導を実施。合格レベルに達するまで学生を鍛える。



特集

わたしたち、先生になります。

教員採用試験の合格者、続々と誕生



九州共立大学
スポーツ学部 スポーツ学科

貝田 悠真さん
(福岡県立光陵高等学校出身)

九州共立大学サッカー部のレギュラーとして全国大会や国体にも出場したほど、サッカーには自信がある。だから、高校生の頃までサッカー選手が夢だった。しかし、一生の仕事にするのは現実的ではないと感じ、高校の恩師に励まされ体育教員をめざすことにした。

大学では部活動と勉強の両立を課した。時間が足りなくなること、筆記試験対策は1年生から開始。空いた時間を見つけては教員採用試験の過去問題を解き、書いて覚える学習を繰り返した。役に立ったのは生涯学習研究センターで行われる教員採用試験対策講座だ。受験科目に特化してあるため合理的で、試験傾向など役立つ情報も多かった。

授業では模擬授業や集団討論など、二次試験対策を重点的に指導してもらった。指導法や知識の確かさはもちろん、黒板の拭き方といった細かな点も先生にチェックされ、過去の集団討

論の内容など参考書にのっていないことをたくさん教わった。おかげで暗記だけでは太刀打ちできない二次試験も、自信を持って臨むことができた。

一方、社会や地域とも関わりたいという気持ちから社会教育主事の資格を取得。3年生の夏休みに古賀市の生涯学習課で市民を対象にした社会活動を体験し、自分の成人式では実行委員も務めた。

これらの活動ではいろいろな世代や立場の人と接することができ、教員としてふさわしい態度や、保護者や上司など目上の人に対する言葉づかいも学べたと感じている。

今は、高校の恩師のように、生徒の夢や目標をサポートできる教員になりたいと思っている。

合格

福岡県 高等学校
保健体育
教員

早めの対策で
部活と勉強を両立
社会体験を通して
高めた人間力



サッカーで活躍し保健体育教師の資格も取得できた九州共立大学は理想の学びの場。学んでいるうちにスポーツを教えることの楽しさがわかってきたという。



苦手を克服、
自分らしさを強みに
生徒に寄り添える
教員をめざす

合格

福岡県 中学校
保健体育
教員

子どもと接することが好きで、中学生の頃にはもう学校の先生になりたいと思っていた。しかし、人前で話すことが苦手。スポーツは好きだが、どちらかというと目立たないタイプである。だが、そんな苦手を克服して教員になりたい。その気持ちはとても強く、中学校の体育教員をめざした。

大学には人を惹きつけるリーダータイプやスポーツ万能タイプの学生が多く、自信を失いかけたこともあった。しかし、ゼミの先生から「他人を気にせず、自分のよさを伸ばすことに集中しなさい」とアドバイスを受け、もっと個性を生かすことを考えるようになった。

小学生にミニバスケットを指導するアルバイトやYMCAの野外活動、発達障害児童のための体育指導のボランティア活動などを通じ、子どもの視線に立った指導や関わり方を学んだ。

ことも自信につながった。3年生の秋から本格的に採用試験対策を始めた。ところが、暗記することが多く、かなり苦戦した。それをカバーするため、一人より複数でいっしょに勉強する方が効率が上がると思い、授業がない日は友人たちと図書館で勉強。自主的に模擬授業も行つて問題点を指摘し合うなど、できることは何でもやろうと意気込んだ。

一方、ICTを使った模擬授業や夏休み・春休みに行う有志対象の特別講座、面接練習でのビデオを使った喋り方のチェックなど、先生によるきめ細かな指導もありがたかった。

そのおかげで採用試験に見事合格。振り返ってみるとハードな毎日だったと思うが、今はスタート地点に立っただけにすぎない。生徒の話をしっかり聞ける、信頼される教員に1日でも早く成長することが目標だ。



九州共立大学
スポーツ学部 スポーツ学科

永井 億さん
(福岡県立小郡高等学校出身)

友人と模擬授業の特訓をするときは、声の大きさや黒板の使い方など、細かい部分まで指摘し合った。大学もできる限り教室を借りようという便宜を図ってくれ、応援してくれた。

特集

わたしたち、先生になります。

教員採用試験の合格者、続々と誕生



九州共立大学
スポーツ学部 スポーツ学科
東 佑興さん
(広島県立祇園北高等学校出身)

運動が好きだから体育教員になろうかな。そんな軽い気持ちで入学した。しかし、入部したバレーボール部で出会った顧問と接するうち、考えが大きく変わった。

それまでは厳しい指導を行うのが体育教員と思っていた。中学・高校の体育教員がみなそうだったからだ。ところが、顧問は「相手を思いやりながら、やる気を引き出す」という指導方針だった。その影響を大きく受け、生徒のやる気を上手に引き出す体育教員になりたいと強く思うようになった。

試験対策では、学内の生涯学習研究センターで行われる教員採用試験対策講座を受講し、テキスト中心の勉強を進めた。実家がある広島県での採用をめざしたので、同県の最新出題傾向など、学外では入手が難しい情報が得られたのもよかった。さらに、母校の先生に会いに行き、教員になった際の心構えなども聴いた。すると、自分のクリアすべき点が浮かび上がり、

大きな収穫となった。

勉強はできる時に徹底して集中するタイプだ。春休みなど、毎日12時間も机に向かった。反面、部活動との両立は難しいと思うようになり、一時は退部を考えた。しかし、生徒の指導法や指導する際の話し方を学ぶ機会になると顧問からアドバイスをされ、後輩を教える立場で続けることにした。

この経験が生きた。相手の態度や動きを表面だけでは判断せず、なぜそのような行動を取るのか分析して考えるようになったからだ。また、やる気を起こす言葉の選び方も学べた。

そんなチャンスに恵まれたおかげで採用試験に合格。自分が理想とする教員像にほんの少し近づけたと思っている。

合格

広島県 中学校
保健体育
教員

恩師と出会い、
気持ちに変化
教員に絶対なると、
思い募る

バレーボール部の顧問をはじめ、大学では素晴らしい先生にたくさん出会えた。疑問に思うことを素直にぶつけ、よい指導してもらったことはいい経験になり、これから生かしていきたいと考えている。

3年後期から、ほとんど毎日過ごした図書館。友人と問題を出し合ったり教え合ったり勉強したが、その甲斐あって仲間は全員目標を達成できた。チームワークで勉強するよさを後輩につなげたいと思っている。



合格をめざして
学んだ仲間と
指導教員の支援が
大きな力に

合格

鹿児島県 中学校
保健体育
教員



九州共立大学
スポーツ学部 スポーツ学科
小松 将大さん
(鹿児島県立松陽高等学校出身)

中学、高校と、学校に通うのが楽しかった。だから、学校は楽しいんだということを生徒に伝えたいと思い、得意だったスポーツを生かし体育教員をめざした。ただ、体育ばかりではなく、広い見識を持った教員になりたいと考え、大学4年間でやるべきことをリストアップ。1・2年生の間は海外旅行にあちこち出かけたり、ボランティア活動に熱心に取り組んだりして、さまざまな体験を重ねた。

大学3年の9月からは教員採用試験に向けて勉強に集中。方や、子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶため、YMCAの野外活動や発達障害児童を対象にした体育指導のボランティアは続けた。4年間学費免除を受けることができたので、アルバイトの必要もなかったのはありがたかった。

ありがたいといえは、教員採用試験担当の日高和美先生の存在もそうだ。筆記試験の勉強は繰り返

しやれば身につくが、人物評価の対象となる面接や論文、模擬授業は先生の目を通した指導が不可欠だ。日高先生は時間が許す限り指導してくれ、面接の練習では自分の理想ばかり語っているなどと、合格に向けて解決すべき点を細かに指摘してくれた。

また、学食の1000円朝食にも感謝している。毎朝、バランスのとれた朝食を取れたことで健やかな大学生活が送れ、食育の大切さも実感できた。

勉強は、同じ目標を持った友人たちを誘い、図書館で10時間以上も励んだ。やる気のある仲間と切磋琢磨したことは、「これだけ勉強したのだから負けるわけがない」という自信につながり、試験当日は思い通りに力を発揮できた。合格できたのは、共に学んだ仲間とサポートしてくれた先生のおかげだと感謝している。

「第1回福岡ご当地さわらサミット2017 in 芦屋町」で、華やかにダンスパフォーマンス! 「さわら巻き」も大好評

FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

遠賀郡芦屋町の「ポートレース芦屋」で平成29年2月25、26の両日、「第1回福岡ご当地さわらサミット2017 in 芦屋町」が開かれ、九州女子大学・九州女子短期大学の学生がステージパフォーマンスで出演したり、「さわら巻き」の店を出店し、人気を集めました。

このイベントは、芦屋町の産品の一つ「さわら」を使ったご当地メニューを通し、町のブランド化を図る目的で芦屋町さわらサミット実行委員会が開催。同町と包括的地域連携協定を結ぶ九州女子大学・九州女子短期大学は実行委員会に学生が参加。教員がロゴマークをデザインするなど、多方面にわたり協力しました。

特に書道パフォーマンスや華やかなダンスパフォーマンスは注目の的。九州女子大学家政学部栄養学科がこのイベントのために開発した「さわら巻き」も好評で、2日合計で751食を販売しました。

イベントは両日とも晴天に恵まれ、大盛況のうちに幕を下ろしました。



キャンパス企業セミナー

FROM 九州共立大学

3年生全員が参加! 意欲的に就活スタート 「学内合同セミナー2018」

現3年生の本格的な就職活動に備え、キャリアデザイン授業の一環として「学内合同セミナー2018」を平成29年1月26日、自由ヶ丘会館で開催しました。

セミナーには一般企業29社、スポーツ関連4社、市役所・警察・消防・自衛隊や教育委員会の5団体が参加。各業界の紹介や仕事内容を説明していただきました。

3年生は全員が参加するという意識の高さで、緊張した面持ちで関心のあるブースへ向かい、各採用担当者から熱心に話を聞いていました。

今年は例年以上に意欲的な姿勢で臨む学生が多く、積極的に質問をしたりメモを頻繁に取るなど、情報収集に余念のない姿があらこちから見られたのが印象的です。採用担当者も丁寧に答えたり、気軽に学生に声を掛けたりと、会場は終始なごやかなムードに包まれ、学生にとって、とても充実した就職活動のスタートとなったようです。



FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

参加企業に就職したOBが相談にのる光景も 「私の就活! あなたの就活! それぞれのオンリーワンへ!」

本格的に始まる就職活動に向けて平成29年2月1日、「私の就活! あなたの就活! それぞれのオンリーワンへ!」と題し、「キャンパス企業セミナー」を開催しました。

幅広く業界を知り、職種の情報収集の場となるこの取り組みは、今年で8回目。今回は24の企業・団体を招き、大学3年生・短大1年生を中心とした約200名の学生が参加。なかには早くから視野を広げようと大学2年生の姿も見られました。

参加企業・団体には、九州女子大学・九州女子短期大学のOBもあり、後輩の相談にのっていました。また、会場内には、毎年好評を呼んでいる「内定者による就活ワンポイント相談コーナー」も設け、内定を獲得した学生が、就職活動に関する悩みなどに親身に答えていました。

参加した学生はたくさんの「気付き」と「刺激」を得られ、就職について真剣に考えることができたと話していました。



九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学 オープンキャンパスのお知らせ

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学のオープンキャンパスを下記の日時で行います。高校生のみなさんや保護者のみなさんのお越しをお待ちしています。事前予約は不要です。お気軽にご参加ください。

FROM 九州共立大学

開催日 / 7月22日(土)・23日(日)、8月19日(土)・20日(日)、9月23日(土・祝)

時間 / 10:00~15:00(9:00受付開始)

全体説明会・模擬講義・模擬ゼミ・施設見学・クラブ見学・学食無料体験・女子カフェ・保護者向けセミナーなど、イベント盛りだくさん。

参加者にはオリジナルグッズ(多機能ボールペン、スタイリングボトル)やドリンクチケットと、入試情報資料をプレゼントします。

【お問い合わせ】TEL:093-693-3305(九州共立大学・入試広報課)



FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

開催日 / 6月17日(土)、7月22日(土)・23日(日)、8月20日(日)、9月23日(土・祝)

時間 / 11:00~15:00(10:30受付開始)

パネル展示、作品展示、体験型授業、施設見学、在学生との懇談、進路相談など実施します。

参加者にはオリジナルグッズやランチドリンク、過去問題集などの資料をプレゼントします。

【お問い合わせ】TEL 093-693-3277(九州女子大学・九州女子短期大学 キャリア支援課)



オリンピックフェンシングの銀メダリスト太田雄貴氏を招き 九州共立大学スポーツ学会が講演会を開催

FROM 九州共立大学

元フェンシング日本代表で、2008年の北京オリンピック、2012年のロンドンオリンピックで、それぞれ銀メダルに輝いた太田雄貴氏の講演会を平成29年1月13日、自由ヶ丘会館で開催しました。

本講演会は、九州共立大学スポーツ学部の学生で組織される「九州共立大学スポーツ学会」の事業として行い、企画から開催までスポーツ学部の学生が運営しました。「フェンシング界における戦略的思考」と題した講演では、フェンシングとの出会いからオリンピックでのメダル獲得までを振り返り、そのなかで直面した問題やその克服、目標をいかに設定するかなどを熱弁。東京オリンピック・パラリンピックの招致活動にも触れ、招致アンバサダーの選考やIOC総会でのプレゼンテーション、国際オリンピック委員会やオリンピック招致委員の実情のほか、2020年東京オリンピックへの思いなども熱く語っていただきました。

太田氏自身、同志社大学の学生として競技だけでなく勉学にも打ち込んできた経験から九州共立大学の学生生活に活かせるような話題も飛び出し、聴講した学生は興味津々。多数の質問に対して丁寧に答えていただきました。

九州共立大学スポーツ学会では侍ジャパンの監督・小久保裕紀氏やマラソンの元日本代表・有森裕子氏を招き、このような講演会を開いており、今後も毎年行っていく予定です。大学のホームページなどでご案内しますのでご期待ください。

